

<金標準、原油安：金利低下の巻き戻しが続くか？・・・>



(出所：オアシス)

米国とイランの60日間の停戦協議の覚書で「合意間近」との報道に楽観的な見方が強まり、また米国第1四半期GDP・改定値の発表や消費支出のデータなどで発表され、スタグフレーション懸念を示すなど、金価格を押し上げる動きを見せている。しかし米国軍は合意に向けた協議中でも、ホルムズ海峡におけるイラン軍の船舶やレーダー施設に対して48時間内で2度の攻撃を行ったことからネガティブな動きを強めると、原油高：金利高の動きに抑えられ、一時金標準先物は23050円まで下値を模索している。しかしニュースサイト・アクシオスは、27日に覚書のほとんどの内容で合意しており、後はトランプ大統領とイラン最高指導者であるモジタバ・ハメネイ師の署名だけと報じていたが、週末にはトランプ大統領は2時間の会議を行ったが、結論は出なかったと報じられている。そのため今週は何処でトランプ大統領がポジティブな発言を行うかに注目され、その間は23700円～24140円の狭いレンジ内で上下を続けると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルは下げている。RCIは短期が上昇し、長期は切り上げている。特に日足が指数平滑移動平均線のレンジ内に移行しており、23700円以下は買われ易く、24140円を上回る値動きに注目が集まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,125,000 円(2026 年 6 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 106,920 円(2026 年 6 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>